

# しやくきよう おおいそ 新年号

## No. 148 2024 Jan

社会福祉法人 大磯町社会福祉協議会  
〒255-0003  
大磯町大磯1352番地の1  
大磯町立福祉センターさざれ石内  
電話 0463-61-9390  
FAX 0463-61-7614  
URL <http://www.oiso-shakyo.jp/>



「社協」とは、社会福祉協議会の略です

### 山王町地域福祉推進委員会の活動紹介



- ①「通い(憩い・交流)の場」としての「山王町サロン」を昨年の6月より毎月第2火曜日の午前に常会場にて3年振りに再開しました。  
新型コロナウイルスの影響で令和2年より休止しており以前と同様に毎週の開催はできていませんが、町民の方からは「サロンでの交流」を希望される声が多く、年明けの1月からは第2・4火曜日の月2回開催を予定しています。
- ②10月8日(日)「落語会」を常会場にて開催したところ、多数の参加がありました。
- ③11月18日(土)、子ども4名を含め30名が旧東海道松並木のポケットパーク前にて、「花壇づくり」(ピオラ・チューリップ)を実施しました。(上写真：参加者集合写真)
- ④1月14日(日)左義長及び1月21日(日)山王町の氏神様である日枝神社にて「いちよう祭り(日枝神社例大祭)」を準備をしています。



新年あけましておめでとうございます。輝かしい新春をお迎えのこととお慶び申し上げます。日頃より、社会福祉協議会のさまざまな事業の推進にあたり、地域の皆さまの温かいご賛同を賜り、心より感謝申し上げます。

昨年10月には、一般社団法人やっほーが地域センターを活用して、子育て支援を中心とした地域福祉活動を開始しました。社会福祉協議会といたしましては、全力でサポートしていきたいと考えております。

私の夢は、見守りサポートやゴミ出し、買い物支援などのちょっとした困りごと相談に対して、町民の皆さまが積極的に援助の手を差し伸べ合えるような温かな地域社会の実現が大磯の地でなされることです。それが正夢になりますように願っております。

最後になりますが、地域の皆さまのご多幸の一年になりますよう、ご健康と更なるご活躍を祈願いたします。



大磯町社会福祉協議会  
会長 鈴木 豊男子

年頭のごあいさつ

高山 弘子	150,000円
ふれあいステップ	5,000円
茶屋町町内会	5,000円
合計3件	総額160,000円
(誤)	
高山 弘子	150,000円
ふれあいステップ	5,000円
茶屋町町内会	5,000円
合計3件	総額160,000円
【寄付金】	
合計3件	総額116,000円

※前回の広報紙に掲載した内容に誤りがございましたので、左記のとおり訂正させていただきます。お詫び申し上げます。(敬称略・順不同)

令和5年10月1日から令和5年11月30日までに大磯町社協にいただいたご寄付を紹介いたします。福祉活動のために大切に使用させていただきます。ご協力に心よりお礼申し上げます。

【寄付物品】

- 小型扇風機 (匿名)
- 下着類 (匿名)
- 衣類等 (匿名2件)

合計4件

皆様からの心温まる善意、ありがとうございます。



### 監査の報告

大磯町社会福祉協議会は、昨年8月、神奈川県福祉課の指導監査と11月、大磯町財政的援助団体等の監査を受けました。指摘事項(定款、経理規程等を遵守した事務等)については改善に取り組み、日々、ガバナンスの強化と透明性の確保を柱に、事業の推進に取り組みしております。今後ともご支援・ご協力の程よろしく願っています。

- 小泉 隆史 様 (高麗区長)
- 秦 慶一 様 (山王町区長)
- 中村 晃也 様 (神明町区長)
- 山本 龍美 様 (北本町区長)



第70回  
神奈川県社会福祉大会での受賞者

永年の共同募金の活動に対して、4名の方に神奈川県共同募金会会長感謝状が贈られました。受賞おめでとうございます。(順不同)

### 子どもと地域みんなのコミュニティスペース「ヤッホー」オープニングイベントへのご参加、ありがとうございました!

11月26日(日)に開催された、オープニングイベント「ヤッホー横丁」には、延べ200の方が来場され、食堂でご飯を食べたり、出店したお店でお買い物をしたり、ワークショップに親子で参加したりと大盛況でした。ヤッホーから、大磯町の様々な年齢、価値観の方たちが集い、新しい出会いが生まれて、町ぐるみで子どももおとなも日々の日常を支え合っていけたらと思いますので、是非お気軽に遊びに来てください。よろしくお祈りいたします!

<食堂・放課後・ほとりの営業日>  
毎週：月・水・金曜日の午前9時30分から午後2時まで  
※1月10日(水)から年始の営業スタート予定です。

web サイト <https://oiso.johoo.blog/>



# 福祉作文コンクール

神奈川県福祉作文コンクール優秀賞・大磯町福祉作文コンクール大磯町社会福祉協議会長賞をダブル受賞されました。おめでとうございます。



大磯町立大磯中学校  
三年 荻村 明希穂  
おきほ

## 私の髪の毛は、誰かのもとへ

皆さんは、ヘアドネーションを知っていますか。ヘアドネーションとは、髪の毛の寄付のことです。

私は小学校六年生の時に、母からヘアドネーションについて教えてもらい、やってみたいと思いました。そして、ヘアドネーションをするために、小学校六年生から中学校二年生までの約三年間髪の毛を伸ばし、去年の秋四十七センチ近く切りました。私はヘアドネーションについてもっと詳しく知るために、調べてみようと思いました。

ヘアドネーションによって寄付された髪の毛は、たぐさんの工程を経て、ウィッグになります。そのウィッグは、病気の治療や事故などで、髪の毛を失ってしまった十八歳以下の子供達に無償で提供されます。「子供達に笑顔を取り戻してほしい。」という優しい思いが、無償の理由だそうです。私がヘアドネーションをし、その髪の毛がウィッグとなって自分の知らない誰かのもとに届き、その人を笑顔にすることができたのなら、とても嬉しいです。ヘアドネーションの活動の認知率は、日本ではまだ五割ほどですが、毎年約

十万人が参加しているそうです。そして一人分のウィッグを作るために必要な髪の毛は、三十人分から五十人分です。年間で、少なくとも二十人分のウィッグを作ることができると量が、寄付されていることを知りました。しかし、一人分のウィッグを作るのに、手作業で髪の毛一本一本を結んでいき、約三か月もかかるそうです。高度な技術と経験が必要となるので、教えることも難しく、ウィッグを作る職人の後継者不足が続いています。そのため、現在約百五十人の人たちが、ウィッグが届くのを待っている状態だということなんです。手作業で、約三か月もかけて作るウィッグは、着けた時の見た目も、触り心地も本物に近く違和感のない仕上がりになっているそうです。これは、職人の優しい思いが込められ、丁寧に作られているからだと思えました。

そんな中、ヘアドネーションの活動に反対する人もいます。「他人の髪の毛だから気持ち悪い。」「ウィッグをつけていても意味がない。」という意見です。確かに、ウィッグを作るための髪の毛は、誰のものかは分かりませんが、失った髪の毛が、元に戻った訳でもありません。しかし、使いたいと思う人たちの気持ちはどうでしょう。か。実際にウィッグが届けられるのを待っている人たちがいるのです。最近では、自分との違いを「個性」と認め合える世の中に、少しずつなってきました。私は本来なら、ヘアドネーションによって作られたウィッグを、必要とする人がいない世の中の方が良いと思います。ウィッグを着けない、ありのままの姿でいても、偏見の目で見られることなく過ごせる世の中が一番だと思えます。しかし、残念ながら、すぐにはそうはいかないので、今はウィッグを必要としている人のために、ヘアドネーションの活動の認知率が上がれば良いと思います。多くの人が関心を持ち、参加する人や職人が増えていけば、作られるウィッグの数も増え、ウィッグを待っている人のもとにも届き、笑顔が増えるだろうと思えました。私は、ヘアドネーションをしたことによって、この活動を詳しく知る事ができました。この活動は皆を笑顔にできる、素晴らしい活動だと思えます。また機会があったら髪の毛を伸ばして、ヘアドネーションをしたいと思っています。いつか、ウィッグを必要としなくても、誰もが笑顔で過ごせる世の中になることを願っています。

## ●災害ボランティア

10月22日(日)大磯町チャレンジフェスタでの防災ブースに参加して、災害時のペット避難に必要な物品の展示・アンケート及び説明・相談、災害時の100円ショップで揃う防災グッズの展示、子供たちを対象の防災クイズを実施し、全体で120名の参加がありました。子供防災クイズの目的は、「子供から防災の家族会議」を行ってもらう事が目的で、今回、大人の参加も有り防災に関心を持って受講して頂きました。今後も幅広く防災の目的を広めて行きたいと思えます。



## ●共同募金

11月11日(土)湘南ベルマーレと名古屋グランパスのJリーグのサッカー試合会場である平塚市レモンガスタジアムにおいて、湘南ベルマーレの協力のもと、神奈川県共同募金会・平塚市支会・茅ヶ崎市支会・鎌倉市支会・厚木市支会・二宮町支会・大磯町支会の共同で赤い羽根共同募金の活動を行いました。当日にご来場いただき募金をしていただいた方々には、ピンバッジ等をお渡しさせていただきました。ご協力ありがとうございました。



## ●総合学習

11月20日(月)、国府小学校4年生(3クラス)が、授業の一環である総合学習の時間に「福祉について」を学ぶため、車椅子体験(段差の昇降や坂の移動方法)と白杖を使用した誘導体験を行いました。体験した生徒からは、「車いすで段差を移動するときの操作の難しさや、車椅子に乗ったときに段差や後ろ向きで移動するときは不安が伴うこと」「目が見えない状態での移動の怖さや実際に誘導をすることの難しさ」等、体験ならではの感想が出されました。

